



THE FRONTIER TIMES

[ザ・フロンティア・タイムズ]



[地球規模で考え、地域で活動する]

1997年の第52回国際連合総会において、日本の提案に基づき、123カ国の賛同を得て、2001年を「ボランティア国際年(International Year of Volunteers:IYV)」とすることが満場一致で採択された。今年はその10周年、「ボランティア国際年+10(IYV+10)」にあたる。

ボランティア国際年の開会式はニューヨークで開催され、当時の国連事務総長コフィ・アナン氏は次のように述べた。「国際社会が真に前進していくためには、人々が何を必要としているのかを熟知しているボランティアの活動が不可欠である。その経済活動を国民経済計算で評価する必要があり、既に試算された先進諸国においては、相当規模の経済活動であることが示されている。ボランティア活動は、それを享受する人々にサービスのみならず、未来への希望を提供している。経済のグローバル化を各国の繁栄に結びつけていくためには、ボランティア活動の活性化による社会的正義の実現と社会システムの安定が不可欠である。」(内閣府2001a)

世界のグローバル化は各国の地域的な活動によって成り立っている。歴史上、経済や文化の発展は、民衆によって生み出されてきたものであって、その逆ではなかったことを私たちは知っている。草の根レベルでのあらゆる場面における献身的な活動

は、その活動の過程で自然に人々に「対話」をもたらし、それが相互理解へと発展するのだ。異文化との衝突がグローバル化に歪みを生じさせないためにも、国際社会におけるボランティア精神はますます重要となってくるだろう。

最近ではNPOなどの非営利団体が、各国政府に縛られることなく国境や政治的な対立などを超越して、困難な状況にある人々を支援する活動を行っている。君たちも、このような団体に参加しながら、国際協力や貢献を行うことが可能である。国際社会で活躍しようとする志をもつ国際生たちは、現実の世界について「見ること」「知ること」「感じる」こと、自分の身体と知性と感性とで触れることを忘れてはならない。例えば近い将来にできることの一つとして、大学進学時のギャップイヤーを利用して国内外におけるボランティア活動の機会を掴んでみてはどうだろうか。

THE FRONTIER TIMES

Report

1分1秒でも早く処置をすれば 助かる可能性が高くなる

～AED講習会(教職員対象)を実施～

街 中でもいろいろなところでよく見かけるようになったAED: Automated External Defibrillator(自動対外式除細動器)。これはあなたも使うことができる、命を救う心臓救命装置です。心臓マヒを起こしたら、救急車や病院に搬送されてから治療しても間に合わないことが多く、これまで多くの人の命が救われずにきました。しかし、このAEDという一般の人でも簡単に使える救命装置があれば、緊急時にいち早く処置することができ、命が救われる確率が上がります。本校では4年前から1階事務室付近に設置してあります。国際生のみなさんは知っていましたか？



8月31日に、専門講師による教職員向けのAED講習会を行い、20数名の教職員が参加しました。はじめに「1分1秒でも早く処置をすれば助かる可能性が高くなる」と講師の方からAEDによる早期処置が重要であることの説明を受けました。そして、具体的な心肺蘇生法とAEDの使用方法についての説明と実技です。少し難しそうなイメージのあるAEDの操作も、音声ガイドに沿って手順を進めれば簡単に使えます。安全に学校生活ができるよう常に心がけていますが、いざという時、冷静・的確に対応できる訓練も実施しています。📌



Message from a Student

中高一貫5年
柳 春佳 さん

すべての瞬間がユニークな体験

私

が留学していたマニトバ州はカナダの真ん中に位置し、冬は-30℃になり車に忘れたペットボトルの水が朝には凍っていたりします。私を応援してくれる心強い親切なホストは2匹の犬を飼っていて、老犬のペラは懐かないけど散歩に疲れたときだけ抱かせてくれます。レトリバーのチャーリーとは仲良しで、散歩中に貨物列車にぶつかったシカの肉と骨をくわえて自慢げに見せて私を驚かせます。

初めは発音が悪いせいか通じなく「Pardon me?」とよく言われ自信を無くした時もありましたが3ヶ月程たつと度胸が付き、気持ちも楽になってきます。現地校の先生のおかげで貴重な体験と出会いがありました。それはカナダ国立青少年吹奏楽団への参加です。先生に勧められバスクラリネットのオーディションに合格し、モントリオールで開か



れたコンサートで演奏できたのです。上手な人達と演奏するのは刺激的で音楽をもっと好きになります。メンバーは全国から集まるので、カナダ全域に友人が出来て今でも交流を続けています。

留学中に起きた東日本大震災は現地でも報道されて心配でした。何かしよう募金箱を作り、翌日には校長先生に募金活動の許可をもらいに行きました。多くの友人や先生が協力してくださり、千羽鶴と一緒に寄付することができました。募金活動中も日本を心配してくれて声をかけてくださる人がいて感動しました。

ここには書ききれないほど多くの素敵な体験とカナダの大切な家族・友人が出来たことは私の宝物です。成長させてくれたカナダで出会ったすべての人達、日本で応援をしてくださった人達に感謝しています。🇨🇦

Pick up the

Feature

国際教養と国際感覚を磨くために、5年生を対象とした国際理解研修が実施され、今年もたくさんの国際生が日本を飛び出して貴重な経験をしました。イギリスやカナダを舞台にした従来のコースに、今年度からはフィリピンを訪れる「マニラコース」が加わり、5名の男子生徒が参加。現地の人たちとの交流を通して感じたこと、ディスカッションを重ねて考えた「自分たちにできること」について、帰国したばかりの生徒たちが振り返ります。

世界に目を向ける きっかけになった 国際理解研修

ボランティアがテーマの国際理解研修

今年度から新設されたマニラコースは、語学研修が中心となる他の3コースとは異なり、ボランティア活動への理解を深めることが大きなテーマのひとつになっています。14日間の研修内容は、世界中で子どもたちの支援活動に取り組んでいるNPO法人『ICAN』が、本校の校訓「フロンティアスピリット」に沿って企画したもの。滞在中には、学校や貧困地域を訪れて生活環境を学ぶ一方、現地

の日本企業や大使館を訪問し、フィリピンが抱える社会問題を解決するために、実際に活動している日本人の話がうかがう機会にも恵まれました。引率した内藤圭祐先生は、「さまざまな立場の人とふれあうことで問題を総合的に理解し、自分がどのように関わっていけるかを考えることが研修の目的。生徒たちが自身の将来を考える上でも、有意義なプログラムになったのでは」と語ります。

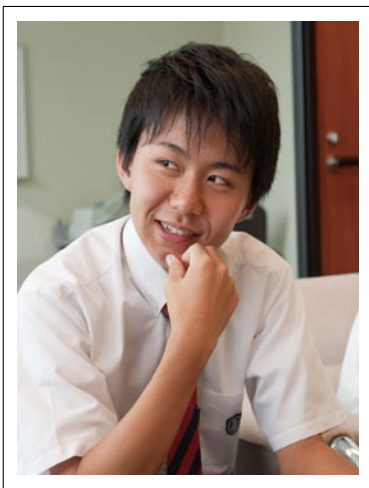


▲笑顔を交えながら、研修での思い出を語ってくれた生徒たち。

現地に行かなければ、気づけないことがある

プログラムの内容は大きく3つに分かれていました。最初のステップは、現地の実情を自分たちの目で確かめること。生徒たちは到着後から帰国直前まで、学校に通う子どもたちや、ゴミ集積所の近くで暮らすストリートチルドレンなど、いろいろな場所を訪問し、たくさんの人と交流しました。「日本は本当に恵まれていると感じました」と振り返るのは仲谷栄人君。「きっとカナダやイギリスでは学べないことがあるはず」という理由で参加した仲谷君にとって、マニラでの日々は新鮮な発見の連続でした。「これまでの自分は、すべてのことを日本の“もの差し”で考えていたことを実感する毎日でした。ゴミ処理場の臭いや、経済的な理由で学校に通えない子どもたちが実際にいることなど、その場所に行かなければ気づけないことがた

くさんありました」。遠く離れた日本で得た情報と、実際に目の当たりにした現実の違いを感じられたことは、とても貴重な経験になったようです。👉



▲「これからも自分たちができることを考えて行動したいです」(仲谷栄人君)



▲ 子どもたちの記念スナップ。訪れる先々で温かい歓迎を受けました。

『自立』を促すような支援の方法が大切と感じました

フィリピンの現状を理解した生徒たちが取り組んだ第2のステップが、問題を解消するために「自分たちがどのように関わることができるか」を考えること。今回の研修では、単にゲストとして各地を訪問するのではなく、率直に意見を交換しあう「シェアリング」の機会が数多く設けられました。貧困地域では、「学校に通いたい」「今の生活から抜け出したい」という、子どもたちの言葉に心を痛めた生徒たち。難しい問題に直面した人たちの切実な声を直接聞くことで、「生徒たちの心の中に『自分にもできることがあるはずだ』という前向きな気持ちが芽生えていきました」と内藤先生。その日の活動を振り返るミーティングでも、プログラムを重ねるにつれ、より積極的に、より深い内容の意見が飛び交うようになっていきました。

さらに、まとめのステップとして、日

本企业や大使館など実際にフィリピンで活動している日本人の話を聞くこともできました。フィリピンと日本、それぞれの視点を理解することで見えてきたのは、「一方的な経済的支援では問題は解決できないこと」と話してくれた河本賢君。「ゴミを拾って生計を立てているのは、現状ではそれが唯一の手段だから。プログラムで体験した、学校に通えない子どもたちのための職業訓練のように、問題の実情を把握した上で、自立を支援する仕組みを作ることが大切だと思いました」。研修を重ねるにつれ、一つひとつの体験が一本の線でつながっていき、目に見えて成長していった生徒たち。子どもたちとの触れあいの中で感じたこと、心に響いた言葉、自分なりに導き出した考え・・・毎日欠かさず記入したレポートは、研修を終える頃にはとても内容の濃いファイルとなりました。🇯🇵

世界に目を向けるきっかけになった14日間



▲「国際理解研修に参加して、さらに世界が広がりました」(河本賢君)

とても充実していたフィリピンでの2週間。そのなかでも、特に強い印象として生徒たちの心に刻まれているのは、子どもたちが見せてくれた屈託のない笑顔です。「困難な生活をしているはずなのに、僕らが触れ合った子どもたちは本当に明るく生活していました」と中野剛成君。「いつかまた子どもたちに会いに行きたい」と笑顔で話す八木憲君や、「将来は自分も『ICAN』のような団体で子どもたちの支援活動をしたい」と、新たな目標を見つけた深井元康君のように、初めての国際理解研修「マニラコース」に参加した5人は、それぞれの収穫を胸に学校に帰って来てくれました。

帰国したばかりでまだ明確な方法は見つかっていないものの、これからも日本とフィリピンとの関係のなかで、自分たちにできることを考えていきたいと口を揃える5人。その取り掛か

りとして、9月の『光楓祭』では、研修の体験を展示発表するとともに、フィリピンで交流したフェアトレードの人形生産者の作品を販売しました。「人形が売れることで生産者の生活環境が改善されることを、身をもって学んだ彼らだからこそ、伝えられることがきっとあるはず」と内藤先生も期待を寄せます。

国際理解研修の狙いは、世界に目を向け、国際感覚を磨くこと。帰国後もインターネットを利用して現地の人たちと交流を続け、「将来は自分が発信する立場として、世界を舞台にしたボランティア活動に携わりたい」と話す河本君や、「今回の体験から、世界と交流できる仕事に就きたいという思いがさらに強くなりました」と目を輝かせる仲谷君。彼らの言葉からも、マニラコースの充実した日々がうかがえました。📌



▲「貴重な体験をした彼らの今後に期待しています」(内藤圭祐先生)

INFORMATION

第7回光楓祭を終えて

Precious Earth, Precious Friends



今

年で名古屋国際中学校・高等学校「光楓祭」も7回目を迎えました。私にとっては6年目となる最後の光楓祭で、先生と生徒が協力し、全員が一生涯の思い出に残るような光楓祭ができたと思います。

今年のテーマは「Precious Earth, Precious Friends」です。今年は皆さんもご存知の通り3月に東日本大震災がありました。私は8月に北東北総体(平成23年度全国高等学校総合体育大会)に行った際、実際に被災地を訪れましたが、あるのは家の土台のみで他は瓦礫

第7回
光楓祭
Nagoya International Junior and Senior High School
Culture Festival

Precious
EARTH
Precious
Friends

日時：2011年9月24日(土)、25日(日)
9:00～15:00
場所：名古屋国際中学校・高等学校
催し：ステージ発表
クラス展示
観劇団 など

名古屋国際 中学校
高等学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

名古屋市中村区広路本町1-16
西913-818-2200 www.nihu.ed.jp
©2011-2010 NIS. ALL RIGHTS RESERVED.

の山でした。その光景を見たとき、私ももっと日本全体の人たちが協力し、復興を目指さなければならぬと感じました。

今年は、被災した人がいるという事実を踏まえ、今自分たちには何ができるかを色々な場面で考えて臨むことができた光楓祭であったと思います。

ご来校された皆様には、その中で国際生でしか表現出来ないような光楓祭を楽しんで頂けたと思います。来年度も是非足を運んで頂きますようお願い申し上げます。

光楓祭実行委員長
中嶋 亮善 (中高一貫6年)

[The Man Who Shot Liberty Valance (1954)]

“This is the West, sir. When the legend becomes fact, print the legend.”

「伝説が事実になったら、伝説を本にする。それが西部なんです。」

映画『リバティ・バランスを射った男』は、ジョン・フォード監督の作品です。「真実は何か」ということが映画を通して描かれています。映画は歳をとったストダード上院議員(ジェームズ・スチュアート)の姿から始まります。ストダードは何年も前にいた西部開拓の町にトム・ドニファンという男の葬儀に参列するために帰って来ました。その昔、トムはライフル銃の名手で、無法の時代的な正義感と強さを持った若者でした。ストダードは彼を殺すために現れたならず者のリバティ・バランスを射ち殺しました。実際には通りの向こうからトムがバランスを殺したのですが、ストダードが「バランスを殺した男」として広く知られるようになります。ストダードが記者にこのことを記事にすると尋ねたところ、記者はタイトルの有名な台詞を言います。この映画はたゆみない西部伝説の神話的役割について問いかけています。🗡️

The Man Who Shot Liberty Valance (1962) is arguably the greatest of John Ford's many films. It explores the question: "What is truth?" The film opens in 1910 with an aging Senator Stoddard (James Stewart). He has come back to the frontier town where he arrived many years before. He has returned to attend the funeral of Tom Doniphon (John Wayne). In the early days of the town, Tom was a "somebody" who knew how to handle a rifle and make his way around a generally lawless town. Now that the town has matured and become civilized, Doniphon's role has become obsolete. A reporter asks Senator Stoddard why he has come to this funeral. Stoddard tells the whole story. The film is essentially one long flashback that explains a confrontation with Liberty Valance (Lee Marvin). Stoddard has a shoot-out with the outlaw Valance and appears to have killed him. In fact, it was Doniphon who killed him from across the street. Still, Stoddard became known as "the man who shot Liberty Valance". When Stoddard asks the reporter if he is going to report the truth, the reporter utters the famous lines above. This classic film questions the role of myth in forging the legends of the West. 🗡️



The Eyes of Texas Were Upon Me

Aito KONDO

Student in the Integrated Six-Year Program

This past year, I spent a year studying in Texas in the United States. I went to high school there and I lived with a local family.

The high school that I went to was massive. There were over two thousand students in one building, but the classes had about twenty students each. I was able to take

seven classes. Everyone has to take four subjects. Those were English, math, science and social studies. I was a sophomore, which means tenth grade, so I took ESL (English as a Second Language) for English, geometry for math, biology for science, and world history for social studies. Then I took four other classes. These were music



history, cooking, health and Spanish. I took music history for the first semester and cooking for the second semester. The most difficult subject was world history. I'm not good at history, and it was in English, so that was hard. Although I wasn't good at it, my teacher helped me a lot. Health was also difficult. The atmosphere of the class was great. I loved the class, but the class was hard. For example I had to remember the names of all of the bones and muscles in our body. It took me a lot of time. Spanish was not as difficult as the first two subjects. It was pretty similar to English. For example, camera is camara in Spanish. I like to learn new languages. It was great to take a Spanish class.



The first period started from 7:30 in the morning and finished at 3:09 in the afternoon. After school, I usually went back to home, and did my homework first then went to karate class on Tuesday and Thursday nights. I went to bible study class on Wednesday night. These were amazing experiences.

My host family was wonderful. My host dad was a bible translator.



My host mom was an algebra teacher and a cake maker. I had four sisters. The oldest sister was twenty-three years old. She graduated from university last year. She was so kind! The second sister was twenty-one and she is going to university in Austin, so I used her room for my room. Even though she and I spent some time together for only few days, I got to know her well, because we are so alike. The third sister just graduated from high school. She was pretty shy like me, so it took time until we got to know each other. The youngest sister was also very nice. She loves “manga” and fashion. We talked about that kind of stuff a lot. She wasn’t the same age with me, but we got along as though we were the same age. My best memory with them was going to San Antonio a week before I left America. We went to see the Alamo, walked along the river

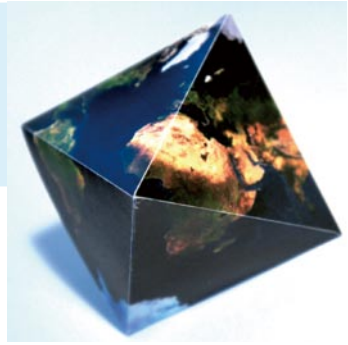


walk and went shopping. We were only there for two days, but I had a lot of fun and I was so happy to go there.

I had an awesome year in Texas. I miss it a lot. I want to go back there as soon as possible and see my family, friends and teachers. Still, I realized how important my own family is through this experience apart from them. I missed them a lot and thought about them often, especially after the March 11th earthquake. I appreciate my parents for supporting me in my year abroad. I want them to know how grateful I am.



GLOBAL VISION



Think globally, act locally

One hears the words “globalization” and “global vision” at all turns these days. They are not the same thing at all. Globalization refers to the increasing tendency of jobs, goods, ideas and technology to cross borders. “Global vision”, on the other hand, refers to the process of seeing the whole as opposed to merely one or two of its parts.

“Think globally, act locally” is a famous phrase that was originally linked to environmentalists. It suggests that human beings must think about the health of the whole planet. It asserts that all life on Earth is interdependent and that we must think about the environment as a system.

Achieving a global vision has never been more important. No single nation can solve the tremendous challenges facing us now—terrorism, climate change, environmental degradation and lack of food and clean water. People from all over the world have to have dialogue and cooperate in order to combat these problems, which are systemic problems. Mutual understanding is vital.

This is why it's important for young people today to acquire the skills that they need to see whole systems—the big picture—and not lose their way by focusing on only one small part of it. That's what international education is all about.

発行 **名古屋国際** 中学校
高等学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

所在地 〒466-0841 名古屋市昭和区広路本町1-16
発行月 年間4回 (6月/9月/12月/3月)

制作 学校法人栗本学園
名古屋国際中学校・高等学校
学内広報チーム
デザイン cluch on cluch Co.,Ltd.
企画協力 株式会社 イーブレイン